

## ～チャレンジを止めない～

株式会社タチエス 代表取締役社長

**山本 雄一郎氏 (高校39期)**

1987年3月 立川高校卒業  
1993年3月 法政大学経営学部卒業  
1997年4月 (株)タチエス入社  
2019年4月 同社 代表取締役社長(現在に至る)



### ■立川高校時代

私が立高に入学したきっかけは、中学3年時の成績が良く、特に主要5科目以外の体育や音楽がオール5で更に加算されたため、1ランク上の立高を受験できたのです。そういった背景ですので、いざ入学してみると周りの同級生達のレベルの高いことに面喰い、その環境の中でどうやれば自分を活かせるのか？を考え、ルーム長(学級委員長)を志願。周りの仲間達の温かい協力もあり、結局3年間ルーム長をやり続け、あだ名はそのまま「ルーム長」でした。私の場合、何かにチャレンジする時はつべこべ考えず、その時の自分の感性に身を委ねて決断をします。実際にはそのポジションになってから大変さに気づくわけですが、それでも諦めずに継続すること、これをモットーとしているような気がします。高校3年間お世話になった稲垣先生のお言葉が支えになっています。「人はやりたい、なりたいと思った時点で、その目標の9割は達成できている。ただし目標を実現出来るか出来ないかの違いは、思い続け努力し続けるかの違いだけだ」



修学旅行にて



キャンパス(1985年CFIチーム)

さて、中学の延長でサッカー部に入学し、こちらも周りのレベルの高さにくすぶっていましたが、そんな時に会ってしまったのが立高祭でした。チームで1つの目標に向かって突き進むという魅力に1年次に目覚め、2年次にはこれまた後先を考えずにキャンパスチーフを志願してしまったわけです。(以下、同期の加納力君の投稿No.86を一部拝借)今ではキャンパスは作られていないのでピンと来ないかも知れませんが、9月末の体育祭に向けて4か月かけて一から作り上げる巨大なオブジェで、各チーム1基ずつ、計4基のキャンパスがグラウンドに聳えます。そのプロジェクトリーダーになったわけです。もうサッカーどころではなく、前年のキャンパスチーフだった3年生に教わりながらひたすら設計図を引き、鋸と金槌を振るい、新聞紙を貼り、作業のための動員をかけ、作業時間確保のために先生方と交渉し、勉強する間も寝る間も惜しんでキャンパス製作に打ち込みました。4か月間ほぼ毎日学校に居ましたので、チーム全員が目標に向かい一丸となって創り上げたモノや共有した時間、は何ものにも代え難い大切な経験です。

### ■卒業後～現在

少し遅れて入学した大学では、ESSで英語劇に打ち込み、更にはアメリカに留学し、と学生生活を満喫しました。いざ就職となり、小学校卒業時のタイムカプセルにしたためた将来の夢「世界を飛び回るビジネスマン」(書いた記憶はまったくありません)の通り、日本の基幹産業でありグローバル化を進めていく自動車業界に縁があり今の会社(株)タチエス(自動車シートの開発～生産を一貫して行うメーカー)に入社、現在に至ります。今は会社の代表として、1分間に1回はオーバーですが常に判断を迫られる毎日です。その判断により社員の生活が掛かってくると思うと緊張の連続ですが、それでも会社や社員の幸せのために自分自身チャレンジをし続けたいと思っています。その心の支えの1つになっているのが、立高時代の経験であることは間違いありません。

**現役高校生の皆さんも目標を決め、その目標に向かってひたすらチャレンジを止めなければ、必ずや結果はついてくるはずですよ。お互い頑張りましょう！**



タチエスが提案する未来のシート



上海モーターショーのタチエスブース